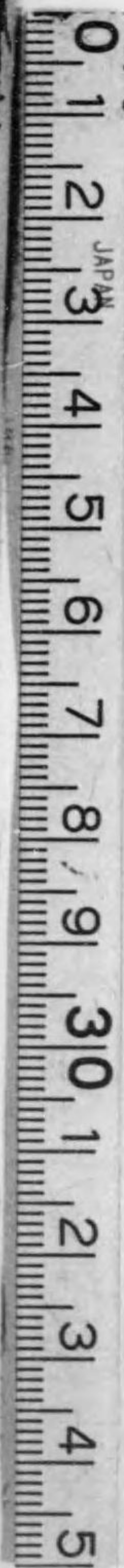


327
753

除虫菊栽培法



始



除虫菊栽培法

327-753

除虫菊干花賣買
苗木種子安價販賣
豫約ニ應ス

弊店主ノ元除虫菊栽培者ニシテ明治四十一年干花二百八十貫ヲ採收シ此レガ賣却
ニ苦心シ自ラ販路擴張ニ勉メ首尾克ク好販路ヲ得タルガ動機トナリ爾來營業ニ從
事シ誠意確實ヲ旨トシ年々農家ノ利益ヲ獲得セシメツ、アリ幸ニ栽培家諸彦干花
取入ノ節御照會アリテ其營業振ヲ認メレラン事ヲ乞フ
但シ照會ノ節ハ直チニ時々ノ直段ヲ回答ス

尾道市向島渡シ場二丁目

商標 (サ) 坂井商店

電話(サ)又ハ(サコ)

大正
4.11.18
内交

除虫菊干花賣買問屋

賣買御問合セノ節ハ確實ナル値段ヲ報ズ

尾道市向島渡シ場二丁目

商標 **共 同 組**

電番(キ)又ハ(キヨ)

弊組ハ左記五名ヲ以テ共同組ト稱シ賣買共ニ確實ニ營業仕候也
但シ現物先物ノ契約ニ應ズ

個人營業 共同組合員

各員賣買ニ巡廻ス

米雜穀商 吳服商 吳服商 吳服商 吳服商
渡邊春吉 石井幸次 田延次 林岩次 吉林原 肥料商

除虫菊干花賣買及種子苗木

其他 米 雜 穀 問 屋

弊店は數年前より除虫菊仲買營業に従事し年々製造家及直輸出商ニ取引をなし確實に取引可仕干花取入の節は御問合セ願上候
苗木も安價に販賣す

尾道市向島西字堤

商標 **力 安 保 商 店**

電番(ア)又ハ(アカ)

切干芋
除虫菊
賣買

尾道市向島渡シ場一丁目

永井合名商會

弊店ハ永年除虫菊ノ仲買營業ニ從事シ確實ヲ旨トシ日二月ニ隆盛ニ趣キ年々神
戸大阪等ノ直輸出商及製造業者ト取引シ本年ノ如キハ一万四千貫ノ賣買ヲナ
セリ今後一層確實ニ取扱申可干花ノ取入ノ節ハ御照會被下度候也



除虫菊栽培培獎勵家

坂井光曉君



祖元培栽菊虫除
君 郎 太 歳 田 藤





序文

農ハ國ノ大本ニシテ斯業ノ盛衰ハ實ニ國家ノ消長
ニ關ス農家タルモノ奮勵シ益々國運ノ發展ヲ期セ
シメ光輝アル我國チシテ經濟的世界王タラシムベ
シ元來我國ハ農家ニ對スル耕地狹少ニシテ山林及
畑地ハ田ニ過グルヲ夥シク從來山林及畑地ヨリ收
益ヲ得ルハ僅々タルモノナリト謂ワザルベカラズ
是等少收入ナル土地ヲ利用シ農業者タルモノ經濟

的發展ヲ要スルコト切ナル秋ニ當リ我縣下ニ於ケル
ル特用農作物殊ニ除虫菊栽培ハ年ニ月ニ多キヲ見
ルハ洵ニ欣ブベキ現象ナリト雖モ或ハ肥培管理或
ハ買賣ノ方法ニ尙幾多ノ改良ノ餘地アルベク殊ニ
販路用途若シクハ需用供給ノ關係不詳ノタメ常ニ
不安ノ念慮ニ驅ラレツ、投機的經營セルモノ尠カ
ラザルヲ愁フ是レ著者が除虫菊ノ爲本書ヲ顯ス所
以ナリ

除虫菊栽培法

第一 沿革

除虫菊は明治十七八年頃始めて奥太利より輸入せられたるものにして本邦に於て營利的栽培行はれたるは和歌山縣有田郡山田原村を以て嚆矢とす、我縣下(向島)に傳播したるも二個の系統あり其一は明治二十七八年頃藤田歳太郎氏東京興農園より種子を購入し他の一は著者が備中渡邊氏の手より求めたるものは是なり今地方に於ける沿革の一斑を述べん

向島附近に於て始めて栽培に従事したるは藤田歳太郎氏ならん是れ恐らく本縣下に於ける斯業の濫觴と曰ふべし氏は資性敏才にして貿易品及蠶業發展策に附て専心研鑽を重ね除虫菊の有利なるを聞き和歌山縣地方に遊び非常に有望な

るを認めて歸國せり其年秋播種し苗を養生し翌春所有の畑二反歩に栽植し翌年五十貫于花を收めたり當時は販路の方法去て困難の爲め態々和歌山縣に持行き賣却せり代價貳圓七拾錢（一貫目に對し）歸國以來斯業の有望なるを説き是れが栽培を勧誘せり雖も未だ人心狐疑して肯するもの至て少く僅に栽培者五六名に過ぎず越つて三十二三年頃は價格非常に低落し爲めに栽培家減じ微々として振はざりしも藤田と著者の兩人は栽培を繼續し一圓以下の下落となり收支相償ざるの場合も屈せず栽培に従事し三十四五年頃に至り需用の路開け價格騰貴と販路擴張せるより栽培者増加するを得たり尙三十七八年日露戰役の際軍需品として各師團より歓迎を受け是れより販路益々擴張し各地方に栽培せらるゝに至り四十一年頃より歐洲へ輸出せらるゝに至り阪神和歌山より有力なる貿易商及製造家來縣し當地方に兩三の仲買者起り盛況を來すに至れり

叙上の如く向島を中心として漸次高根島を初め御調豊田各村及愛媛縣の北部に及びし除虫菊は二十年以前和歌山備中等より傳來普及したるものにして當時好奇心に驅らるゝ投機者流の狂奔恰も兒戲に類する有識者の一顧に値するもの

と却て冷笑せられたるべし焉んぞ知らん僅々二十余年を経過したる今日地方特産物の一たらんとは噫向島に於ける藤田氏の如きは偶然農家に一大福音を與へたる点に於て確不毛の地を開拓し名を竹帛に留むる者と對照し其功績の大小遽に斷し難きものと謂ふべし

第 二 現 況

一、氣候。地形。土質

除虫菊の原產地ペルシヤ及ダルマシヤに於ては山野高操の地に（殊にペルシヤ種は海拔六千尺餘の高地に至る迄盛に野生せりと謂ふ）果して然らば溫暖と乾燥とを好む特性ありと謂を得ん本縣の氣候は南北幾分の相違あること勿論なれ共概ね溫暖にして除虫菊の栽培に適せざるなく（殊に南海岸及島嶼降水量中庸を得而して花崗岩の分解に依りて生成せられたる砂質壤土の傾斜地甚だ多き故に各村除虫菊の栽培に適せざるはなく農業經濟の關係上許すものあらんか恐

らくは全縣下各部落一齊に栽培せらるゝに至るべし然れ共經濟的各種の事情相
 扞格し現今の栽培區域比較的廣汎ならざるも亦已むを得ざるなり現今栽培せる
 地方は日光よく透射し排水の佳良なる砂質壤土にして傾斜地最も適し陰濕又は
 重粘の地にては發育不良なり又肥沃に失する土地に於ては發育旺盛なれ共徒長
 軟弱に陥り安く開花却て少きの傾あり須らく土地の撰擇を要す

二、主産地及産額

除虫菊は波斯塊太利伊太利北米合衆國等に産出せられ殊に塊國は輸出額年々
 壹万五千ハンドレットウエート余(一バンドウエートは我拾貳貫匁余に相當す)
 の額に達せり云ふ本邦にては栽培日尙淺く分布區域未だ廣汎ならざれ共近時
 逐年栽培反別の増加を見るは蓋時勢の進歩に伴ひ衛生的施設完きを要し農業の
 發達は病虫害驅除豫防の進歩を促すが故に其需用愈多きを加ふるに因らずんば
 あらざるなり之が統計を見るに内地に於ける主産地は廣島、岡山、和歌山の三
 縣にして作付反別各貳百町以上にして生産惣額の約七割以上に相當す其他の地

方に至りては愛知愛媛の各貳參拾町歩を除くの外殆んど擧げて數ふるに足らず
 而して本縣の産額は岡山と共に全國の重鎮にして其内御調の向島最も多く豊田
 の高根島是に次ぐ左に表を掲げ讀者の參考に資せん

内地生産額

年次	作付反別	收穫高	反當收量
明治參拾九年	一七八、〇	三五、六〇〇	一一〇
全 四拾年	一九七、〇	三五、四六〇	一八
全 四拾壹年	二二八、〇	四五、六〇〇	一一〇
全 四拾貳年	三一五、〇	六三、〇〇〇	一八
全 四拾參年	四四九、〇	九八、七八〇	一一二
全 四拾四年	四九五、〇	九九、〇〇〇	一一〇
大正 元年	五三六、〇	一一七、九二〇	一一二
全 貳 年	六五八、〇	一三一、六〇〇	一一〇
全 參 年	九三〇、〇	一八六、〇〇〇	一一〇

全 四 年	一〇五〇、〇	一三三二、〇〇〇	一一一
-------	--------	----------	-----

本縣下最近拾年の生産高

年 次	作付反別	收穫高	反當收量
明治參拾九年	二、五 ^町	五五〇	一一〇
全 四 拾 年	四、八	一、〇五六	一一一
全 四 拾 壹 年	一六、八	三、八六四	一一三
全 四 拾 貳 年	二五、〇	五、〇〇〇	一一〇
全 四 拾 參 年	八三、〇	一八、二六〇	一一一
全 四 拾 四 年	一三五、〇	三一、〇五〇	一一三
大 正 元 年	一八六、〇	三九、六〇〇	一一一
全 貳 年	二〇四、〇	四八、九六〇	一一四
全 參 年	二九三、〇	六四、四六〇	一一二
全 四 年	三六五、〇	八三、九五〇	一一三

向島最近十年の生産高

明治三拾九年	一、二 ^町	三〇〇	一一五
--------	------------------	-----	-----

年 次	作付反別	收穫高	反當收量
全 四 拾 年	二、二	五二八	一一四
全 四 拾 壹 年	一一、〇	三、一一〇	一一六
全 四 拾 貳 年	三〇、〇	七、五〇〇	一一五
全 四 拾 參 年	四八、〇	一二、九六〇	一一七
全 四 拾 四 年	六五、〇	一六、二五〇	一二七
大 正 元 年	五八、四	一四、〇一〇	一二四
同 貳 年	六九、五	一九、四六〇	一二八
同 參 年	八五、〇	二二、一〇〇	一二六
同 四 年	一〇五、〇	二六、二五〇	一二五

以上各表により除虫菊栽培の数字的沿革。本縣除虫菊の本邦の斯業に如何なる位置を占むるや又向島が縣下に於て如何なる位置にあるや其一斑を知り得べし

三、品 種

除虫菊は大別して二種あり一はペルシヤ種一はダルマシヤ種なり前者は花辨大にして赤色莖葉徒長繁茂し花蕾を發生すること少し後者は前者に比し花辨小白色なり然れ共よく繁殖し倭生にして花蕾の着生多し故にペルシヤ種は不經濟の品種にしてダルマシヤ種は經濟的品種と唱へざるべからず本縣に於ける除虫菊はダルマシヤ種のみにしてペルシヤ種を栽培するもの絶へて見ざるなり

四、繁殖及植付法

除虫菊の繁殖法に二あり一は播種し苗を育生するものにして他は株分法に依るもの是れなれ共本縣に於て行はるゝは前法に依り概ね繁殖せられつゝあり然れ共株分法も著者の實驗に依れば可なるものと斷定す

五、苗 の 育 成

イ 採種は收穫の際畑の一隅に株を残し置き花辨萎凋後三週間位(七月上旬)又

は(七月中旬頃)經過して花梗黃變し殆んど枯色を呈し(莖が一二寸枯れたる時)刈り取るをよこす刈取りたる株は乾燥して貯藏し七月下旬採み落すものこす反當貳參合(六七株)にて可なり

□ 苗床は日光の透射及排水可良にして砂質壤土の肥沃なる傾斜畑を選び壤土を深く耕し七塊を克く粉碎して均らし幅三尺位長さ適宜の短冊形に整地し稀薄なる腐熟人糞尿を散布し置くものなり

ハ 播種期は春彼岸と秋彼岸を好機とす

但し秋彼岸後十月末迄に播種すれば發芽するものなり

ニ 播種法は種子壹合に砂參合の割合に混じ布切にて包み是れを約二十分間位水桶に入れ克く水に浸し堆肥又は温室にて温むる事約三日間にして(多少發芽の模様を認むる頃)用意せる苗床に散播し然て木灰五分沃土五分の割合に混じ種子の露出せざる程度に覆土するものこす

ホ 苗床管理 播種終れば藁を以て苗床覆をなすべし種播後晴天なる時は隔日位に如露又は噴霧器にて適宜灌水すべし約七日間位遅く共十日間にて發芽する

を以て發芽後は可成竹木を以て臺となし嫩芽損傷を招かざるに注意し二葉發生の後全く覆を廢す發芽後時々稀薄なく人糞尿を施す時は生育佳良なり

へ 假植 秋季播種したる苗は發芽後五六週間即ち十一月中下旬頃に至り一二寸に生長するを以て之を假植するを要す晩秋播種したるものは翌年早春假植す假植すべき苗床は播種苗床と略同様に整地し方二寸に苗一本の割合にて移植し五六日後人糞尿を施し更に年内か早春かに施肥するものとす秋季移植したる苗は翌三月頃本植するを良とすれ共作付の都合に依り梅雨頃より六月上旬迄に本植すべし苗床は反當約八坪を要す

ト 株分法 除虫菊は宿根草なるが故に古株と雖も年々開花すれども定植後四五年を経れば收量著しく減ず依て定植後滿二ケ年若くは滿三ケ年の古株は之を廢棄し或は株分を行ふ普通十月中旬頃古株を掘り取り本年發生したる根を分ちて四五株とし枯損したる株跡補植の用に供し或は新植付の用にす此法によりたる株は活着後と雖も生育餘り充分ならず收穫少しとす

チ 植付法 本植すべき地を均らし畦間一尺五寸内外に淺き溝を掘り株間一尺

に一本宛苗を配置し指頭を以て定植すべし一反歩の苗は七千乃至九千本迄とす

六、施 肥

定植後十一月中下旬に至り大豆粕若くは練粕の類を施し大豆粕なれば反當十貫内外練粕なれば反當十貫内外を施し翌春三月上旬の頃人造肥料（硫酸アンモニヤ及硫酸加里過磷酸石灰等を適宜配合せるもの）約六七貫匁を施用すべし二年目以後も春秋二回行ふべし施肥方法は除草の後株間に肥料を施し中耕し可成覆土することに注意すべし一反歩に要する肥料代は五圓乃至十圓とす

七、中 耕 除 草

除虫菊栽培は中耕除草其他の管理極めて簡單にして春季及秋季施肥の際雜草を除き中耕をなし夏季二回位除草するものとす

八、病 虫 害

除虫菊は昆虫類に有毒なる成分を含有するが故に害虫の寄生することなし只往々莖葉繁茂徒長軟弱となり花蕾を着生せざる事あれ共是等は施肥方法を誤り

生理的障害を來したるものにして病原菌の寄生を認め難し其外に立枯を稱する病害あり春季より夏季に亘り漸次萎凋し一株悉く枯死す被害甚しきは枯損全圃の一三割に及ぶ事あり病徴恰も蕃菽の白絹病の如し

九、收 穫

除虫菊の開花は年により多少の相違あれ共定植の翌年より概ね五月の下旬に始り六月中旬に終るものとす然れ共満開期は六月上旬なり往時作付僅少なりし頃は開花するや花辨開展を見計ひ(晴天に限る)籠を携へて花園に出で指頭又は剪を以て摘花し品質一般に優等なる品を生産したれ共近時作付面積増加し一戸三四反歩甚しきは何町歩を栽培せるが如き状況なるを以て一々摘花する暇なく大部分は満開したる頃を見計ひ地上一二寸位の所より鎌を以て刈取り麥扱にて花を扱き落すを普通とせり從て蕾、半開、満開、萎凋、結實等各程度の異なるものを混濁し自然品質を損し殺虫の効果減じ聲價を失墜する傾向あるは甚だ遺憾とする所なり殊に收穫期は時恰も梅雨前なるを以て刈取又は乾燥の際降雨に遭ひ

たるものは黒褐色に變色し品質最も劣變す扱き落したる花は莖に薄く擴げ(莖一枚に生花約八百匁)を晴天四五日乾燥し醱酵の虞なき程度となし印度米袋及莖俵等に入れ貯藏し販賣の用に供す、收量は土地と栽培家の技術により大に相違あり一反歩十七八貫より四十五貫迄とす。普通二十四五ノ見做し大差なからん

十、賣 買

除虫菊の賣買は六月中旬より翌年二三月頃に亘り其期間長きが如しと雖も七月下旬乃至八月上旬(舊曆孟羅盆頃)を最盛期とす農家は其收得金を以て上半期決算に充つる習慣あり本縣に於ける仲買人は向島尾道福山等に各三四名あり明治四十一年頃より阪神及和歌山等より仲買人來縣し以來年と共盛況を來すに至れり取引は一貫目に付何圓何拾錢と定め荷造は農家に於て新莖を曲げて俵となし横三ヶ所縦繩一ヶ所掛けとし一俵の重量は區々にして一定せざれ共十一貫乃至十六貫迄風袋重量一貫目内外を普通とす往時仲買人なき時は笠岡紀州等の

仲買人來り買取り而して阪神地方へ賣買行はれしが近時産額の量増加と有力なる仲買人顯れたるに共に貿易商製造家等と直接取引をするに至れり
 除虫菊の價は年々高下し一定ならざれ共普通農作物と多少異にす今著者が既往十年間賣却したる價格を記し参考に供せん

年 次

一貫目の價格

明治三十九年	二、五〇〇
全 四十年	三、二〇〇
全 四十一年	一、八〇〇
全 四十二年	二、四〇〇
全 四十三年	二、二五〇
全 四十四年	二、八〇〇
大正元年	二、七五〇
全 二年	二、六〇〇
全 三年	二、八〇〇

全 四年

三、七〇〇

十一、收 支 計 算

一反歩當り除虫菊栽培の收支計算は區々にして其標準を得ること困難なれ共向島西村に於ける栽培を調査したるものを斟酌して概數を掲げん

科 目

金 額

單 價

備 考

第一年	1	1	第一年六月ヨリ第三年六月迄 滿二ヶ年間ノ收支計算ナリ
小 計	1	1	
第二年乾花	六二、五〇〇	二、五〇〇	
全 莖	一、五〇〇	三〇〇	莖葉古株等ハ賣買極メテ稀ナ レ共價格ヲ見積計上ス
小 計	六四、〇〇〇		
第三年乾花	七五、〇〇〇	二、五〇〇	
全 莖	一、八〇〇	三〇〇	
全 古株	七、二〇〇		
全 七千二百本			

合 小

計 八四、〇〇〇
計 一四八、〇〇〇

支 出 の 部

科 目	金 額	單 價	備 考
苗七、二〇〇本	一四、四〇〇	二	苗ハ買入タルトモノシテ計上セ
整地人夫	一、〇〇〇	五〇〇	男二人
植付人夫	一、五〇〇	五〇〇	男二人 女二人
除草中耕人夫	一、〇〇〇	五〇〇	男一人 女二人
施肥人夫	〇、五〇〇	五〇〇	男一人
農具損料	一、〇〇〇		
肥料代	五、〇〇〇		
資本利子	一、七〇八		年七分ノ利子ニ計上セリ
小計	二六、一〇八		
公租	二、〇〇〇		地租縣稅村稅區費總テノモノ
中耕人夫	一、五〇〇	二五〇	女六人

第 一 年

第 二 年

除草人夫	一、五〇〇	五〇〇	男三人
施肥人夫	一、〇〇〇	五〇〇	男二人
收穫人夫	一、七五〇	五〇〇	男三 女一人
扱落及乾燥人夫	三、五〇〇	五〇〇	男一人 女十人
農具損料	一、二〇〇		
肥料代	七、五〇〇		
資本利子	一、三九七		年七分ノ利子トシテ計上ス
小計	二二、三四七		

支 出 合 計

四七、四五五

收 支 差 引 益 金

一〇〇、五四五

右は滿二ケ年間の純益金なり小作栽培家は前表より小作料を減じたるもの純益
ごなるが故に除虫菊の有利なるを知るべし

第 三 除 虫 菊 の 將 來

本縣に於ける除虫菊の栽培は明治二十八年に創まり爾來年々共に増加する傾

向あれども前章既に述ぶるが如く其産地普からず産額亦二十五万貫に達せざるの現況なり而して時勢の進運に伴ひ衛生的施設益々完きを要し農業の發達進歩は愈々病虫害驅除豫防完きを要するが故に其需要年々増加するは蓋し自然の勢ならん乎明治三十二年頃迄は年々二万貫内外の（主として奥國産）原料及粉末の輸入を仰きしが三十四五年頃より内地の産額漸次増加し三十六年頃よりは輸入殆んど其跡を絶ち却て粉末線香等輸出の盛況を呈し爾後逐年輸出額を増加し最近の輸出額粉末は（のみこり粉）一万貫以上線香（かこり線香一箱十把入）三十万箱以上を算す加之明治四十二年より原料の輸出開始せられ大正元年の如きは三十六万余斤に及び昨年及本年は六十万斤内外の巨額に達せり輸出入の關係既に此盛況に向へり翻て内地に於ける消費高は調査の據るべきものなきを以て明確なる數字を知るに由なしと雖も主要なる當業者に就て著者の調査したる事項を綜合するに原料の消費年額は大阪市安住大藥房二万五千貫余紀州上山英一郎氏一万貫内外紀州上山彦松氏五六千貫堺市種田氏六七千貫等を主とし少くとも十万貫を下らざるものゝ如し幸に本縣の氣候風土は除虫菊の栽培に適し交通

機關殆んど完備せり農業者は斯業に關する經驗を有し且つ主産地たるの名聲を博せり既に地の利を占め人爲を盡し易き經濟上最も有利の條件を具備す豈奮勵せざるべけんや茲に除虫菊の將來に對する希望の一端を附記し結論せせん

(1) 生産 本縣に於ける現今の作付反別と産額は他の地方に比較するに敢て少きを憂ふるものに非ずと雖も猶増加の餘地綽々たるものありと信ず殊に分布狀況に想到せんか全縣下の約三割五分は御調郡向島約二割は豊田郡高根島に於て占むるは何人も思ひ半に過ぎん況んや農家三四反より七八反の作付をなして平然たるに於てをや元來除虫菊の栽培は勞力資本を要する事比較的少なく收穫乾燥に勞力を要する事甚だ多く且つ其季節梅雨期前なるを以て作付面積廣き農家の生産品は優良なる能はざるなり是れ地方特産物の名價を失墜するの一因にして遺憾とする處なり

除虫菊の價格は變動急激ならずと雖も特用作物の常とし穀菽類に比し安全の程度同様に論じ難く幾分投機的傾向の帶ぶるを免れざるが故に農家に於て専門的に栽培するが如きは農業經濟上策を得たるものにあらず此意味に於て除

虫菊は副業的に經營すべき性質の作物にして以上二個の理由に依り最も集約的に栽培し一般農家に普及せん事を望む而して農家たる者一二反歩位宛か若しくは果樹の間作として普く栽培し肥培管理に注意せんか理想的の優等品を得る事敢て難事にあらざるべし

尙ほ收穫調製に注意し品質の優劣を分類し荷造を一定にし共同販賣の方法に依り生産者各自の利益を増進するの覺悟あるを要望す

(2)加工 現今本縣の生産する除虫菊は悉く阪、神和歌山に搬出せられ加工の後再び逆戻して消費せられつゝあるは甚だ遺憾す依りて縣内に於て加工し地方の利益を増進するの要ありとは何人も首肯する所なり幸に本縣は原料の生産豊富而して將來産額増の餘地あるを以て加工販賣せんか大に地方富源を開發するを得ん

叙上の如く除虫菊の主産地たる本縣は其作付に普及に努め栽培方法の改善と相俟つて産額増加し一面に於ては原料の供給地たると共に一面に於ては加工所を設け少くも縣下の消費には應ぜらる可きに至らん事切望に堪へざるなり

最後に輸出の統計を掲げ参考に供せん

年 次	輸出數量	代 價
明治四十二年	四〇、〇八三 _斤	一七、一九五 _圓
全 四 十 三 年	一三四、六四九	五八、九七二
全 四 十 四 年	二四五、〇五三	八四、六〇一
大 正 元 年	三六五、三一八	一四一、二二二
全 二 年	二六一、九一五	一四九、七九〇
全 三 年	六一四、七〇九	一四八、二九一

本年度の統計は未だ判明に至らざるも六十万斤を越ゆること勿論なり明治四十二年に於ける輸出額は僅に四万斤なれ共六ヶ年後の大正三年度は實に六十万斤(十五倍余)の多額に上れり除虫菊の需用如何に擴張しつゝあるかは前表に徴し明かなり

本邦に於ける輸取出扱者の主なるもの左の如し

神戸市磯上通八丁目 長岡支店 貿易商

大阪市堂島濱三丁目 長 瀬 商 店 輸出商
 全市高麗橋四丁目 島 商 店 輸出商

神戸市 カールウイッチ商會

全 オツペチールフレール商會

全 アヘンハイム兄弟商會

産地仲買商として年々五千貫内外を取扱ふ者左の如し

廣島縣尾道市向島渡場 坂 井 商 店

全 縣御調郡向島西村 桃 橙 園 組 店

全 縣御調郡向島西村 永 井 商 店

全 縣御調郡向島西村 安 保 勝 次 郎

全 縣御調郡向島西村 堀 力 吉

全 縣御調郡向島西村 林 原 熊 一

全 縣御調郡向島渡場 共 同 社

其他岡山縣に於て三四の主なる仲買業者あれ共他は別に擧ぐる事を省略す

第 四 結 論

近時吾皇國は一等國の班に列し列強間の重鎮を以て自ら任ずる雖も逐年人口増加し生活の程度向上し内外債の關係上財政經濟の基礎鞏固ならず且つ大正二年度に於ける輸入超過の如きは實に一億圓以上の巨額に達し就中農業に關するも其の半すこ謂ふ此秋に當り輸出の増加を圖り輸入防遏し以て大勢を逆轉するもの獨り吾二十億圓の生産力を有する農業を措きて他に索むべからざるなり。農家の責任重大なりと謂ふべし然れども本邦農産の主位を占むる穀菽類は未だ以て満足に同胞の需用を充たす能はざるを如何せん況んや其輸出超過をや農家たるもの須く除虫菊の如きは輸出の貿易品たるべき特用作物の生産に奮勵し堅忍不拔以て永遠の利益を圖り大に國家に貢獻し小は一家の福祉を増進せんことを切望に堪はざるなり

以 上

備 考

前項既に述るが如く除虫菊は普通農作物と異にし性質上價格の變動すべきも

のなれば(年に依り急激の變動あり)本年の如きは六月末迄は神戸取引百斤に四十七八圓のもの七月十五日迄に至り六十圓の取引行はれたるが如き變動あるが故に年々奸商續出し生産品買入に弄言を利用し無暴なる商業を営む等の事あり殊に注意を要す茲に著者は自ら除虫菊賣買部を設け何人に不拘時に直段の高低等照會者に對し確實に回答する事は勿論又生産品の委託を受け實費手数料にて時機を逸せず栽培者たる農家諸彦に満足を與へつゝあり左に販賣營業所を記し諸彦の參考に供せん

廣島縣尾道市向島渡し場二丁目

貿易品除虫菊商

坂井商店

前記の所に問合の者に限り除虫菊干花及種子苗木の價格委しく報知す(但し返信料相添へ照會の程)又村農會及團體にして除虫菊栽培に付土地の撰擇或は講話の希望者は申込あれば諾否回答す

弊店ハ永年肥料界ニ立チ實地ト經驗トニ基キ除虫菊肥料トシテ遺憾ナキモノヲ發見セリ元來除虫菊ハ酸性肥料ハ不適ニシテ有機質加里肥料ヲ好ム特性アルガ故ニ弊店製造ニ係ル村上肥料ノ内殊ニ配合方法ニ注意シ最モ適當ナルモノヲ安價ニ販賣可仕一度御購求ノ上御試アラン事切望ニ堪エザルナリ但シ除虫菊ハ肥培管理ヲ誤レバ立枯ト稱スルモノヲ生シ夏季殆ンド枯死スルモノナルガ故ニ殊ニ注意セラレン事ヲ參考迄ニ申添置候也

尾道市向島渡場海岸

各種肥料村上肥料
塵芥灰煙草堆肥

村上肥料店

貿易品、藥種天產物
並ニ海產物、除虫菊 賣買問屋

弊店ハ薄荷除虫菊木附子唐辛落花生等ヲ専門ニ取扱而シテ是ガ栽培ヲ獎勵スルヲ以テ目的トス

現ニ明治四十三年以來廣島縣御調豊田沼隈各村ノ獎勵ニ勉メ本年ノ如キハ愈販賣擴張セルニ依リ斯業ノ有望ナルヲ認ノ自ラ愛媛縣各地ニ出張栽培方法ヲ講話示導シ多大ノ歡迎ヲ受ケタリ益々奮勵シテ邦家ノ爲メ多額ナル生産品ヲ得ル覺悟ヲ有ス

但シ栽培家諸君賣買ノ節必ズ其當時ノ直段ヲ御照會アリテ弊店ノ確實ナル營業ヲ認メラレンコトヲ乞フ

尚ホ除虫菊其他天產物ノ種苗人用ノ諸君ニハ發芽確實ナル種苗ヲ安價ニ取扱フ

尾道市向島

堀商店

除虫菊仲買
植木苗木賣買

弊店ハ數年間除虫菊賣買ニ從事シ殊ニ除虫菊部ニ限り數名ノ組合員ヲ以テ特ニ嚴格ト誠意ト親切トニ依リ營業致シ居候處年二月ニ多數ノ取扱ヲナセリ今後一層奮勵シ栽培家諸彦ノ満足ニ盡スヘシ取入ノ節ハ是非御問合相成度候也

尾道市向島西村字堤

桃橙園組

327-753

除虫菊仲買萬問屋

弊店は永年除虫菊仲買營業に従事し直輸商及製造家と取引を行ひ多
數の賣買をなし居り爾來一層誠意を旨とし營業可仕是非御問合相成
度候也

尾道市向島西字堤

林原熊一商店

〔大正四年十一月八日印刷〕
〔大正四年十一月五日發行〕

廣島縣御調郡向島西村
千八百五十五番地
編輯兼 坂井光曉
發行人

尾道市土堂町一番地ノ四
印刷人 田中源六

尾道市土堂町一番地ノ四
印刷所 小松活版所

定價一部十二錢

527
753

終

